

君が、心から笑える世界を。
miki HOUSE



2nd
October
2014

The Kanagawa kenritsu
Ongakudo

Orchestra AfIA®
Accademia
filarmonica
international
Association

Nature and Music vol.5 **BALLADE**

CONDUCTOR: DAISUKE MURANAKA

VIOLIN: AKIHIRO MIURA

オーケストラ・アフィア第5回演奏会

「自然と音楽」演奏会シリーズ

Ballade ~吟遊詩人の物語~

指揮：村中大祐 ヴァイオリン：三浦章宏

日時：2014年10月2日（木） 19：15 開演

場所：神奈川県立音楽堂 「木のホール」

主催：AfIA Office

協賛：三起商行株式会社 株式会社ファンケル

後援：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

miki HOUSE

MIKI HOUSE
FIRST

DOUBLE.B
MIKIHOUSE

Hot Biscuits
MIKIHOUSE

MIKI HOUSE
COLLECTION

Black Bear
MIKIHOUSE

FRANCE ITALY U.K. UKRAINE TURKEY RUSSIA U.S.A. CANADA CHINA HONG KONG KOREA SINGAPORE THAILAND MIKI SHOKO CO.LTD. <http://www.mikihouse.co.jp>

miki HOUSE

FANCL

Menu of the Day

Starter 前菜

R.Schumann : Overture aus "Overture, Scherzo und Finale"
Es-dur Opus 52

シューマン : 「序曲・スケルツォとフィナーレ」より「序曲」
変ホ長調作品 52

Pasta パスタ

L.van Beethoven : Konzert für Violine und Orchester
D-dur Opus 61 (Violine Akihiro Miura)

ベートーヴェン : ヴァイオリン協奏曲 二長調作品 61
(独奏 : 三浦章宏)

Surprise!

Something very special for you...

お楽しみに!

~~~~~ Intermission ~~~~~

## Main Course メイン

F.Mendelssohn Bartholdy : Symphonie Nr.3  
"Schottische" a-moll Opus 56 (Fassung 1843)

メンデルスゾーン : 交響曲第3番「スコットランド」  
イ短調作品 56 (1843年版)

## 音のストーリー誕生

長い音楽の歴史のなかで「音の世界」に描かれてきたものと言えば、始めはバッハなどに代表される「音楽で神を賛美する」宗教的な世界でした。それがモーツァルトの世界を通じてより「人間的な色彩」を帯びようになり、ベートーヴェンの世界となると、音のなかに人間の持つ「感情」が激しく入り込み、同時に神を賛美する部分は、次第に「自然を描写する」感覚へと移行して行きます。

このベートーヴェンの音感覚をより発展させたのがシューベルトであり、更にはメンデルスゾーンを通じて、その「自然描写」の写実的な妙と、その中に織り込まれた「人間の感情の移ろい」が見事に描かれていくのです。そこにはまるで、「物語」のような音の世界が広がっていきます。

一方でシューベルトによって、「歌曲」の分野で「美しき水車屋の娘」に代表される連作ものが誕生し、「音楽と文学」が密接に結びつきます。そこにシューマンが現れると、「歌曲」だけではなく、ピアノを中心とした器楽作品のなかにも「文学性」を追求する新しいかたちが生まれて来るのです。

## Starter 前菜 *Insalata primaverile*

シューマン : 「序曲・スケルツォとフィナーレ」より「序曲」変ホ長調作品 52

前菜に置かれたシューマンの味。それは青あおとした旬の春野菜に溢れたインサラータ・プリマヴェーリーレ (*Insalata primaverile*) だ。イタリアの春ならプンタレッレ (*Puntarelle*) にルゲッタ (*Rughetta*)、そしてポモドリーニ (*Pomodorini*) の酸味が旨い。これら野菜の持つ土くささとはっきりした食感に、見事な調和を見せるのは、これもまたフルーティなアルザスの白。美味しいアルザスの白ワインに見事に調和する新鮮な序曲のインサラータ (*Insalata*)。皆さんには山の香りを存分に嗅いで頂きたい。若々しいアルザスの白ワインの香りと共に、このインサラータの素材の旨みを味わってほしい。塩、コショウは少なめに。オリーブオイルは適量がいい。

### ● シューマンの世界

シューマンのピアノ曲の中でも特に有名な *Träumerei* 「トロイメライ」は、ドイツ語で「夢見心地」の意味ですが、この「夢」こそは、作曲家シューマンの文学的な音の世界のキーワード。

「自分の眼＝主観」が音の中にはっきりと存在します。それは「感情」を生み出すのです。悩みを抱えた登場人物の心の内が、音の中で感情をともなって描き尽くされるのです。これはベートーヴェンが半ば築き上げた「感情の世界」を大きく継承・発展させたものと言えます。



当時の「ロマンティック」と言われる時代は、文学、絵画、音楽に「人間の感情」が深く入り込んで来た時代です。それらは互いに連関し合います。例えばシューマンやメンデルスゾーンと同時代に生きたフランスの作曲家ベルリオーズの大曲「幻想交響曲」の各楽章には、それぞれ違ったタイトルが付けられており、「夢・情熱」～「舞踏会」etc... というプログラムが組まれています。これもロマンティックの時代の特徴です。まるで「アヘンを吸ったときに起こるめまいのような症状」の中で、音による見事な情景描写がそこには表現されています。この「ロマンティック」という「危ない非日常」こそが、聴き手の心を打つのかもかもしれません。

#### 「序曲」：アンダンテ・コン・モート～アレグロ

「一体どこまで落ちれば気が済むのか？」という「悩めるウェルテル」の心境を吐露するような場面が続くこの作品。ところが、次に現れるアレグロで事態は一転する。暗闇から抜け出した主人公は、急に躁状態の「から騒ぎ」を始め、そこには夢見心地な甘い雰囲気さえ醸し出されて、シューマンらしい歌心に満ちた作品である。

### Pasta パスタ Bucatini all'amatriciana

ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲二長調 作品 61

見事なセモリナの香りがするパスタシュッタ (Pasta sciutta) が茹で上がったようだ。これから召し上がっていただくのは、あのブカティーニ・アラ・アマトリチャーナ (Bucatini all'amatoriana)。結構匂いのきつい豚腹パンチエッタ (Pancetta) に、ニンニク、玉ねぎ、ペペロンチーノ (Peperoncino) を炒め合わせ、トマトの香り満点のスーゴ (Sugo) にかからめたら穴あき太麺パスタの完成だ！まずはモンタルチーノ (Montalcino) の赤をご相伴あれ。コクと渋みのあるトスカーナ産の赤ワインを用意したのは他でもない。名曲中の名曲を聴くためだ。さあ、準備は整った。あとは食卓をテラスに用意して、田園風景を眺めながらベートーヴェンを聴くでしょう。

#### ●名曲の謎に迫る

クラシック音楽の作曲家は、大抵曲を書き終えると、誰かにその曲を献呈しています。献呈先は当時の有名人やお金持ち、愛する人やお世話になった人、と様々ですが、相手が誰であっても、楽譜の最初のページに必ず献辞が書きこまれるのです。そこで 1806 年に作曲されたベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲のお話です。写真にもあるように、「ステファン・フォン・ブロイニングに捧ぐ」という献辞が、曲名の上にはっきりと書かれているのが分かります。でも実はこの曲、本来献呈された相手ブロイニングの為に書かれていた訳でもなさそうです。



#### ●愛弟子の存在

史実を調べていくとわかるのですが、この協奏曲は、作曲当初ベートーヴェンの弟子で作曲家兼ヴァイオリニストのフランツ・クレメント (1780～1842) の為に書かれたそうです。つまり写真の献辞は「後付け」ということになります。つまりこういうことです。

#### フランツ・クレメント＝ヴァイオリン協奏曲を初演した愛弟子 シュテファン・フォン・ブロイニング＝後に曲を献呈された人

このことは、ベートーヴェン自身の自筆スコアに書き込まれた、「冗談まじりの言葉」によっても証明できます。

「Concerto par *Clemenza* pour *Clement* primoViolino e direttore al teatro a vienne」  
「「慈善」(Clemenza) 演奏会でウィーンの劇場のコンサートマスターで音楽監督のクレメント (Clement) の為に書かれた協奏曲」  
このようにベートーヴェン自身が駄洒落を使って書く位ですから、作曲当初は献辞のあったブロイニングにではなく、あくまでも初演を弾いた弟子のクレメントのために、このヴァイオリン協奏曲が書かれたのは間違いないのです。

#### ●ブロイニング家と初恋

では愛弟子でヴァイオリニストのクレメントに書き下ろした筈のヴァイオリン協奏曲が、何故シュテファン・フォン・ブロイニングに後付けで献呈されているのでしょうか？そしてブロイニングとは一体誰なのでしょう？

ここに一枚の絵があります。ブロイニング家の肖像画です。右から二人目はシュテファン・フォン・ブロイニング。今回の主役はこのシュテファンです。



ボンで生まれたベートーヴェンにとって、シュテファンとは、幼馴染として同じヴァイオリンの先生に師事する仲でした。またシュテファンの母ヘレーネによって、ボンの一等地にあるブロイニング家への自由な出入りを許されていたベートーヴェンは、やがてシュテファンの妹や弟のピアノ教師となり、遂にはシュテファンの妹エレオノーレ (*Eleonore von Breuning*) に恋をするのです。この初恋は、ベートーヴェンがウィーンに出発するまで続きますが、残念ながら実ることはありませんでした。

法律家を目指していたシュテファンは、大学での勉強を終えるとすぐウィーンにやって来て、1801年旧友ベートーヴェンと再会します。それからの二人は、途中喧嘩別れすることがあったとしても、互いに「終生の友」として深く関わることとなります。1806年、シュテファンはベートーヴェンが既に一度初演して不評だった歌劇「フィデリオ」の台本を、大幅に書き直す作業に取り掛かり、ベートーヴェンの音楽人生にとって極めて大きな役割を果たすことになるのです。ベートーヴェンが後年、感謝の意を込めてヴァイオリン協奏曲を献呈したというのも、こういう背景から考えれば、至極当然のような気がします。

#### ●ユリーの悲劇

シュテファンの結婚相手を調べてみると、面白いことがわかります。彼の2度の結婚のうち、最初の妻ユリー・フォン・フェリング (1791～1809) はベートーヴェンの教え子で、しかもベートーヴェンが振られた相手ではありませんか！

ベートーヴェンの主治医の娘ユリーについては、シュテファンの長男ゲルハルトが、その生前に書き残した手記には、「ベートーヴェンはユリーの音楽的才能と美貌の両方にぞっこんだった。彼女のピアノの腕前を高く評価していたベートーヴェンは、彼女とよく連弾などに興じていた。」とあります。まだシュテファンの妻になる前、18歳のユリーに恋をしたベートーヴェンは、このヴァイオリン協奏曲のピアノ協奏曲編曲版を、彼女に献呈します。しかしユリーはシュテファンの妻となります。そして結婚後一年も経たないうちに19歳の若さでこの世を去るのです。シュテファンはその後コンスタンツェ・ルスコヴィッツと再婚、3人の子供に恵まれて、先ほどの肖像画が描かれるという訳です。

長男のゲルハルトによると、「幼馴染の二人の関係は終生続き、ベートーヴェンの死後、シュテファンは彼の遺産管理まで申し出た」そうですが、ベートーヴェンという終生の友を失ったその2か月後、まるで後を追うように他界します。

ベートーヴェンがこのヴァイオリン協奏曲をシュテファンに献呈した裏には、こうした隠されたドラマがあったのです。

#### 第一楽章：アレグロ・マ・ノン・トロッポ

4つの不思議な太鼓の連打。二長調という明るさ、自信と平和に満ち溢れた空気。堂々とした風格を感じさせるオーケストラの前奏から、繊細なヴァイオリンの独奏が歌うように奏でられる。ゆったりとした田舎の日曜日、黄金色の田園風景が眼の前に広がり、そこに舞うヴァイオリンの音は、まるで風のような。

#### 第二楽章：ラルゲット

辺りはしんと静まり返って、ひとりの老人が石畳をトボトボと歩いている。その昔「英雄」と称された過去を持つ年老いた男に、今残されたものと言えば思い出ばかり。日曜日の午後、家族との食事の喧騒から逃げ去って、ひとり広場に姿を現した彼は、井戸端のベンチに腰を下ろし、ゆったりと葉巻に火を点ける。甘酸っぱい思い出が記憶から蘇り、その厳しい表情にはいつしか優しい微笑みが浮かんでいた。

#### 第三楽章：ロンド

村の祭りに老若男女が繰り出で踊り出す。あちらこちらから老人を囲んで若者たちが手に手を取って現れると、皆が踊り狂う様を見ていた老人も、いつしか一緒に踊り出す。曲の途中で現れるメランコリックなメロディーは、まるで老人が若かりし頃、恋人に贈ったバラードのような響き。果たしてこの恋は実ったのだろうか。乞うご期待！

### Main Course メイン *Saltimbocca alla romana*

メンデルスゾーン：交響曲第3番「スコットランド」イ短調作品56 (1843年版)

アマトリチャーナは重めのパスタだったが、量を少なめにしたので皆さんのお腹にはまだそれなりの隙間があると思う。今夜のメインは肉料理、サルティンボッカ・アラ・ロマーナ (ローマ風仔牛肉料理 *Saltimbocca alla romana*) だ。サルト (*Salto*) とは「飛び上がる」、そしてイン・ボッカ (*in bocca*) は「口の中に」の意味。併せて「口の中に飛び込む」となる。これはシチリア産のネロ・ダーヴォラ (*Nero d'Avola*) の赤ワインと一緒にお召し上がりいただくとしよう。悲劇のスコットランド女王、メアリーのお話と共に。

悲劇のヒロイン、メアリー・スチュアート (*Mary Stuart*)。彼女はスコットランド女王として、同じ英国のイングランド女王エリザベス1世と並び称された女帝だ。彼女の数奇な運命をシラーが劇作家として舞台に掛け、ドイツ国内でも多くがその影響を受けたようだ。彼女はスコットランド生まれだが、幼少期からフランスで育ち、その王家の名字まで *Stewart* からフランス語的な *Stuart* という綴りに変えていたというから、かなりのフランス虜囚だったらしい。実際に10代でフランス王妃となり、その後夫の仏国王アンリ2世が逝去するとスコットランドに戻ってイングランドの王位継承権を主張し続けたため、様々な陰謀に加担した罪で処刑された。

メンデルスゾーンはその生涯で10度も英国を訪れているが、北部スコットランドを訪れてメアリーの住んでいたエディンバラにあるホーリールード (Holyrood Palace) 宮の廃墟を目にした瞬間、この交響曲第一楽章の冒頭部分の旋律が思い浮かんだという。夕暮れ時に佇んだ廃墟の中で、スコットランド女王に戴冠するメアリーに纏わる悲劇の物語が、曲全体を支配する短調のメロディーのなかに響き渡る。吟遊詩人メンデルスゾーンが書き綴った「バラード」のメロディーの数々。これが幾重にも重なりあい、たとえようもなく美しい万華鏡のような作品に仕上がっている。



©Kaishu Tai

#### 第一楽章：アンダンテ・コン・モート / アレグロ・ウン・ポコ・アジタート

廃墟からゆっくりと湧きおこるメアリーの思い出をモチーフにして、スコットランド旅情に浸るメンデルスゾーンが、その風景に潜む切なさを歌い上げる。人生の荒波をかき分けて旅する旅人メンデルスゾーンの姿が見え隠れする。

#### 第二楽章：ヴィヴァーチェ・ノン・トロツポ

ここでは一転、スコットランドの田舎の表情豊かで牧歌的な雰囲気漂う。一面金色の麦畑に揺れる穂の中で、農夫たちの朝が始まる。あちらこちらから朝の挨拶が沸き起こり、行き交う人のなか牛や馬、そして鳥たちまで朝の挨拶に参加する。子供達の喧騒や市場の賑わい。そして去っていく人たちの一場面。

#### 第三楽章：アダージョ

物思いにふけり、ふと昔の恋心や情熱を思い起こす吟遊詩人の姿が浮かび上がる。許されぬ恋の情熱と教会のドグマの狭間で悩む詩人の姿は、もしかするとメンデルスゾーン自身の姿かもしれない。

#### 第四楽章：アレグロ・ヴィヴァチッシモ / アレグロ・マエストーゾ・アッサイ

この速度表記には、もともとメンデルスゾーンが「戦場のアレグロ」 *Allegro guerriero* と書いていたらしいが、「戦いの場面」を想起させる音楽だ。シェイクスピア好きなら、ロメオとジュリエットのカプレッティ家とモンテッキ家の争いを想像してしまうところだが、ここはイングランドとスコットランドの戦いだらう。凄惨な戦いが無常の時を迎えると、終盤コーダで遠くから聴こえてくる勝利の響きは、スコットランドの民族楽器バグパイプの音。もちろんバグパイプは使っていないが、「スコットランド勝利」を確信させる響きで幕を閉じる。

指揮者  
村中大祐  
Daisuke MURANAKA

東京外国語大学ドイツ語学科を卒業後、ウィーン国立音楽大学で指揮を学び、トーティ・ダル・モンテ国際オペラコンクール指揮部門「ボッテガ」と第1回マリオ・グゼッラ国際指揮者コンクールで、いずれも第1位を獲得。フルトヴェングラーの高弟で20世紀最高のモーツァルト指揮者、ペーター・マークの薫陶を受け、また今年他界したクラウディオ・アッパードの下でも研鑽を積む。1995年、急病の師ペーター・マークに代わって、イタリア・トレヴィーゾにある「マリオ・デル・モノコ」歌劇場での公演初日2時間前に急遽抜擢されて指揮したモーツァルトの歌劇「魔笛」は、イタリア内外での話題を呼ぶ鮮烈なデビューとなった。

これまでにヴェネチア・フェニーチェ歌劇場、パレルモ・テアトロ・マッシモ、新国立劇場（日本）、スイス・ザンクトガレン・オペラ・フェスティバルや英国グラインドボーンオペラ（アジア人初）などに登場し、ボーザル・ホール（ブリュッセル）、カドガン・ホール（ロンドン）、ドヴォルザーク・ホール（チェコ）、サーラ・ヴェルディ（ミラノ）等の演奏会に登場。オペラとコンサートのいずれでも世界各地で絶賛を博している。

1999年に東京フィルハーモニー交響楽団でデビュー以来、NHK交響楽団をはじめとする国内主要オーケストラに招かれ、新国立劇場で指揮したモーツァルトの歌劇「魔笛」では第11回出光音楽賞（2001年）を受賞。これまでに第19回ヨコハマ遊大賞受賞（2007年）。また横浜オペラ未来プロジェクト「秘密の結婚」が三菱東京UFJ芸術文化財団音楽賞（2009年）を受賞している。

2006年～2009年横浜開港150周年記念事業「横浜オペラ未来プロジェクト」の企画・立案を行い、同プロジェクトを芸術監督として成功に導いた。また横浜OMPオーケストラを設立し、内外のアーティストの人材流通拠点を横浜に創出したことは、日本国内のみならず海外でも大きな反響を呼んだ。2011年5月にイタリアで行った東日本大震災の追悼コンサートをきっかけに、『自然と音楽』のテーマをライフワークとし、世界各国での演奏を繰り返している。

2013年にはオーケストラ・アフィア (Afia) を創設。『自然と音楽』演奏会シリーズとして、東京の鎮守の森・浜離宮朝日ホールでの一連のコンサートを開始。街の音・街の息吹きを取り入れるため、横浜での公開リハーサルを行い、また第二回「満月に寄す」では、鎌倉 鶴岡八幡宮の神嘗祭に合わせ、同社、若宮にて奉納演奏を行った。

2013年11月からは英国ロンドン・カドガンホールにてイギリス室内管弦楽団 (ECO) との『自然と音楽』シリーズを開始し、ロンドンでの評価が益々高まっている。2014年4月のペーター・ヴェン「田園」の演奏は満員の聴衆をうならせ、スタンディングオベーションで迎えられたことから、2015年3月のロンドン定期演奏会での再演が決定した。また同年5月に行われるチャールズ皇太子主催のチャリティ演奏会の指揮者として招聘されることが決定した。

メディアでは、テレビ朝日系列「題名のない音楽会」、日本テレビ系列「深夜のコンサート」やNHKFM、NHKBS、NHK教育テレビ、TOKYO FM、FMヨコハマ、TVKなどに多数出演。現在、FM横浜「THE BREEZE」（毎月最終週火曜朝11時～）ドルチェ・カンタービレに「ミュージック・コンシェルジュ、音のソムリエ」として出演中。クラシック音楽についてざっくばらんにいろいろな角度から紹介している。

オフィシャルWebサイト：<http://muranplanet.com>



©中村ユタカ

ヴァイオリンソロ  
三浦章宏  
Akihiro MIURA

徳永二男氏に師事。1984年筑波大学を卒業し、翌年NHK交響楽団に入団。第25回ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール第2位入賞（1位なし）他受賞多数。1989年アフィニス文化財団の奨学生として、ドイツ・ミュンヘンへ留学、エルネ・セベスティアン氏に師事。1999年より東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスター。

これまでに新イタリア合奏団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー室内オーケストラ、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、神戸市室内合奏団等と共演している。リサイタル、室内楽活動も活発で、ボアヴェール・トリオ、鎌倉芸術館ゾリステン、JTアートホール室内楽シリーズへの度々の出演や、2007年にはヴェーラ弦楽四重奏団を結成、12月に横浜みなとみらいホールで結成コンサートを行った。

2011年6月には東京オペラシティ・コンサートホールにおいて、バッハ、ベートーヴェン、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を一夜で演奏するリサイタルを開催、2012年6月にJ.S. バッハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲演奏会、2013年4月にピアニスト清水和音氏とブラームス・ソナタ全曲リサイタルを行う、また、同年7月のオーケストラ・アフィア創立時よりソロ・コンサートマスターとして出演。多彩で精力的な演奏活動を展開している。現在、国立音楽大学や洗足学園音楽大学で後進の指導にもあたっている。

コンサートミストレス  
渡辺美穂  
Miho WATANABE

1983年、名古屋市生まれ。3歳よりヴァイオリンを始め、林茂子、故・久保田良作、故・ゲルハルト＝ボッセ、ジェラル＝プーレ、澤和樹の各氏に師事する。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校から東京藝術大学へと進み、2005年卒業。在学中には学内で選抜されモーニングコンサートに出演し高く評価された。また卒業時にはアカンサス音楽賞を受賞し、同大学院へ進学。2006年、東京フィルハーモニー交響楽団へ入団し、2012年7月までセカンドヴァイオリン フォアシューピラーを務め、同年9月、大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターに就任。第49回全日本学生音楽コンクール中学生の部 名古屋大会第一位。第53回全日本学生音楽コンクール高校生の部 全国大会第一位。オーケストラプレイヤーとしてだけでなく、ソリストとしてもこれまでに名古屋フィルハーモニー交響楽団、藝大フィルハーモニア、セントラル愛知交響楽団等と協演しており、これから益々の活躍が期待されている。



## オーケストラ・アフィア奏者

## 第一ヴァイオリン

## 西川茉莉奈 Marina NISHIKAWA

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。同大学院研究科修士課程を修了。2012年ベルリン国立芸術大学ディプロマ課程を最高位を得て首席で卒業。2010/2011年、ドイツ・オペラ・ベルリンオーケストラのアカデミー生。2012/13年 紀尾井シンフォニエッタ東京シーズンメンバー。各地でソロ、室内楽を始め、客演コンサートミストレス、首席奏者としても幅広く活躍している。

## 渡辺弘子 Hiroko WATANABE

東京藝術大学音楽学部附属音楽高校、同大学器楽科卒業。第9回日本クラシック音楽コンクール全国大会第二位。第10回ルーマニア国際音楽コンクール入選。

## 濱田彰子 Shoko HAMADA

洗足学園音楽大学、同大学院修士課程器楽専攻を首席で卒業。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団団員、静岡県立沼津西高等学校芸術科非常勤講師。

## 大藤康祐 Kosuke DAITO

横浜生まれ。昭和音楽大学卒業、専攻科修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院でイーゴリ・オイストラフに学ぶ。清水高師、川上久雄の諸氏に師事。

## 重岡菜穂子 Nahoko SHIGEOKA (首席)

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学、同大学院修了。大学卒業時に、同声会賞受賞。文化庁在外研修員として、ベルギーに留学しブリュッセル王立音楽院に入学。ディプロマを取得し、最高栄誉賞付きで、満場一致の満点で首席卒業。

## 瀬堀玲美 Remi SEBORI

桐朋女子高校音楽科、桐朋学園大学を経て研究科修了。サイトウキネン室内楽勉強会、オペラプロジェクト参加。演奏家として活躍中。東工大管弦楽団の指導にあたる。

## 芝田愛子 Aiko SHIBATA

東京藝術大学、ウィーン国立音楽大学卒業。チューリッヒ歌劇場管弦楽団、ウィーン放送交響楽団などで契約団員として活動。現在フリーの演奏家として活動中。

## 越智久美子 Kumiko OCHI

国立音楽大学を首席卒業。桐朋学園大学研究科修了。横浜ザハール・ブロン、ヴァイオリンセミナー第1期生。東京音楽コンクール入選。大阪国際音楽コンクール第3位。

## 早川元菜 Haruna HAYAKAWA

国立音大附属音楽高校、国立音楽大学を卒業。同校卒業演奏会及び読売新聞社主催新人演奏会に出演。現在ソロ・室内楽、オーケストラを中心に演奏活動を行っている。

## 第二ヴァイオリン

## 服部亜希子 Akiko HATTORI

国立音楽大学ヴァイオリン専攻を首席で卒業、武岡賞受賞。読売新人演奏会出演。これまでに向田浩子、石橋洋子、三浦章宏の各氏に師事。

## 神保聡子 Satoko JINBO

東京藝術大学、同大学院修士課程修了。清水高師氏に師事。モーニングコンサートにて藝大フィルハーモニアと共演。米国SMUメドウズ音楽院卒業。E・シュミダー氏に師事。コンチェルトコンペティションに優勝し、メドウズシンフォニーオーケストラと共演。

## 志摩かなえ Kanae SHIMA

東京藝術大学音楽学部卒業。2001年より横浜パ  
ロック室内合奏団員。現在プロオーケストラや  
ミュージカル、J-POPのライブなどでも活動中。

## 竹政大介 Daisuke TAKEMASA

愛媛県出身。洗足学園音楽大学音楽学部卒業。同  
大学大学院修了。全四国音楽コンクールにおいて、  
第32回最優秀賞受賞。第33回、第35回優秀賞  
受賞。

## 玄津 舞 Mai GENTSU

武蔵野音楽大学首席卒業。読売新聞演奏会出演。  
京都国際音楽学生フェスティバル参加。これまで  
に菅原英洋、グレゴリー・フェイギン、三浦彰宏  
の各氏に師事。

## 館村 結 Yui TATEMURA

国立音楽大学卒業。国立音楽大学アドヴァンスト  
管弦楽コース修了。第8回日本演奏家コンクール  
弦楽器部門入選。徳永二男、三浦章宏、荒井雅至  
の各氏に師事。

## ヴィオラ

## 叶澤尚子 Naoko KANOZAWA (首席)

福島県出身。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐  
朋学園大学音楽部門卒業。2005年ヴィオラに転  
向。第三回横浜国際音楽コンクール弦楽器部門第  
1位。サイトウキネン・オーケストラ、小澤征爾  
音楽塾、サイトウキネン若い人のための室内楽勉  
強会、PMFなどに参加。また、2008年にカルテッ  
トゼーレのメンバーとして地域創造主催公共ホー  
ル活性化アウトリーチフォーラム事業に参加。  
現在も同カルテットにおいて各地でアウトリーチ  
活動を行っている。2013年より、名古屋フィル  
ハーモニー交響楽団ヴィオラ奏者。

## 高橋 奨 Susumu TAKAHASHI

東京音楽大学卒業、洗足学園音楽大学大学院修了。  
ヴィオラを丸末俊之、百武由紀、岡田伸夫、井野  
遼大輔の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハー  
モニック管弦楽団ヴィオラ奏者。

## 森山千春 Chiharu MORIYAMA

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業。桐朋  
オーケストラ・アカデミー修了。現在、フリーの  
ヴィオラ奏者として演奏活動を行う。アンサンブ  
ル・ロカ、東京シンフォニア各メンバー。

## 七澤達哉 Tatsuya NANASAWA

東京藝術大学音楽学部卒業。第12回大阪国際音  
楽コンクール アンサンブル部門第1位。神戸市  
長賞受賞。カルテットN等のヴィオラ奏者として、  
室内楽のコンサートで活躍中。小澤国際室内楽ア  
カデミー・奥志賀、SKF等に参加。これまでにヴィ  
オラを川本嘉子氏、川崎和憲氏、市坪俊彦氏に師事。

## 鈴村大樹 Taiki SUZUMURA

3歳よりヴァイオリンを始め18歳でヴィオラに  
転向。第9回東京音楽コンクール3位。これま  
でに宮崎国際音楽祭、プロジェクトQ等のコン  
サートに出演。岡田伸夫氏に師事。

## 平野真生 Manao HIRANO

洗足学園音楽大学卒業。同大学院修士課程修了。  
ヴィオラスペース、GMMFS、小澤征爾音楽塾オ  
ペラプロジェクト、サイトウ・キネン・フェスティ  
バル松本「子供のための音楽会」「青少年のための  
オペラ」等参加。ヴィオラと室内楽を岡田伸夫、  
須田祥子の両氏に師事。

## チェロ

## 奥泉貴圭 Takayoshi OKUIZUMI (首席)

東京藝術大学附属音楽高等学校を卒業後、ドイツ・  
トロッシンゲン音楽大学を経て、2007年より2年  
間バイエルン国立歌劇場の契約団員として研鑽を  
積む。2006年度文化庁在外研修員。上野学園非  
常勤講師。

## 村中俊之 Toshiyuki MURANAKA

東京藝術大学卒業。NHK大河ドラマ龍馬伝「龍馬  
伝紀行」テーマ曲のアレンジを担当。ソロアルバム  
『SoloS』、C.P.E.BACH チェロ協奏曲等リリース。

## 松井理史 Yoshifumi MATSUI (首席)

千葉県出身。9歳よりコントラバスを始める。桐  
朋学園大学卒業。同研究科、桐朋オーケストラアカ  
デミーを修了。特定非営利活動ハマのJACKメン  
バー。永島義男、西田直文、白土文雄の各氏に師事。

## 宮崎由美香 Yumika MIYAZAKI (首席)

東京藝術大学首席卒業。同大学大学院修了。日本  
木管コンクール第2位。フルートコンベンション  
コンクール第2位。管打楽器コンクール第2位。  
NHK交響楽団他、多数の客演首席を務める。尚美  
ミュージックカレッジ非常勤講師。

## 小泉ユミ Yumi KOIZUMI

桐朋学園大学音楽学部卒業。オランダ、ズヴォーレ  
音楽院およびメシアンアカデミー修了。チェリスト兼  
声楽家。ファンデーク音楽院主宰。

## 飯島哲蔵 Tetsuzo IJIMA

4歳よりチェロを始める。これまでにチェロを中  
島克久、前田善彦、河野文昭、上森祥平、山崎伸  
子の各氏に師事。現在、東京藝術大学4年に在学中。

## コントラバス

## 菅野紗綾 Saya SUGANO

東京藝術大学卒業。石川滋、永島義男、山本修の  
各氏に師事。

## 片倉宏樹 Hiroki KATAKURA

東京藝術大学卒業。日演連推薦新人演奏会出演。小  
澤征爾音楽塾IX、Xに参加。他にもソロ、オーケス  
トラにて多数活動中。これまでに村上満志、山本修  
の各氏に師事。

## フルート

## 柴田真梨子 Mariko SHIBATA

東京藝術大学音楽学部卒業。同大学大学院修了。ドイ  
ツのコレギウム・ムジクム国際音楽セミナー「オーケ  
ストラ・室内楽コース」修了。第9回レ・スプレnde  
ル音楽コンクール管楽器部門第3位入賞。第13回日  
本フルートコンベンションコンクール・ピッコロ部門  
第2位入賞。現在、東京吹奏楽団フルート奏者。フル  
ート専門店「テオバルト」講師。

## オーボエ

## 鈴木純子 Junko SUZUKI (首席)

東京藝術大学卒業。現在、神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者。1997 から 98 年にかけてアフィニス文化財団海外研修員としてフランスに留学。

## 多田敦美 Atsumi TADA

愛知県立芸術大学卒業。東京藝術大学別科卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修了。日演連推薦新人演奏会にて札幌交響楽団と共演。現在、フリー奏者として活動。寺岡隼、小畑善昭、オットー・ヴィンター、池田昭子各氏に師事。

## クラリネット

## 櫻田はるか Haruka SAKURADA (首席)

国立音楽大学卒業。桐朋オーケストラアカデミー研修課程及び研究科修了後渡仏。ヴェルサイユ地方国立音楽院及びパリ 12 区立音楽院修了。現在、在京オーケストラ及び吹奏楽団に客演出演他、ソリスト、室内楽奏者として活動。足利市民会館専属室内オーケストラ、足利カンマーオーケスター団員。

## 芳賀史徳 Fuminori HAGA

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業後、渡仏。オーベルヴィリエ・ラ・クールヌーヴ地方国立音楽院卒業。現在、日本フィルハーモニー交響楽団クラリネット奏者。洗足学園音楽大学非常勤講師。

## ファゴット

## 武井俊樹 Toshiki TAKEI (首席)

桐朋学園大学音楽学部卒。卒業演奏会および読売新人演奏会に出演。1991 年から 1997 年まで仙台フィルハーモニー管弦楽団に在籍。外山雄三氏(音楽監督/当時) 他の指揮により定期演奏会等でソリストとしても出演。第 9 回日本管打楽器コンクール・ファゴット部門第 2 位受賞。読売日本交響楽団に在籍。

## 黒田紀子 Noriko KURODA

武蔵野音楽大学卒業。ファゴットを境野達男、岡崎耕治、S. Azzolini、P. Marono の各氏に、室内楽を山本正治氏に師事。現在はフリーのファゴット奏者として在京、地方のオーケストラ、吹奏楽での演奏、スタジオ収録などで活動中。

## ホルン

## 日橋辰朗 Tatsuo NIPPASHI (首席)

2010 年東京音楽大学卒業。第 26 回日本管打楽器コンクール第 1 位。第 80 回日本音楽コンクール第 1 位。日本フィルハーモニー交響楽団首席ホルン奏者。

## 渡部奈津子 Natsuko WATANABE

鳥取県出身。大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コースを経て、洗足学園音楽大学大学院修士課程音楽研究科修了。現在、広島交響楽団ホルン奏者。Cor Ensemble VENUS メンバー。

## 木村俊介 Shunsuke KIMURA

桐朋学園大学卒業。フリーランスで活動。卒業演奏会、ヤマハ新人演奏会に出演。第 26 回日本管打楽器コンクール第 4 位。猶井正幸氏、宮野大輔氏に師事。

## 田島小春 Koharu TAJIMA

東京藝術大学卒業。須山芳博、守山光三、西條貴人の各氏に師事。現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団団員。

## トランペット

## 田中敏雄 Toshio TANAKA (首席)

1994 年東京音楽大学卒業。トランペットを津堅直弘氏に師事。1992 年にサンドポイント(米国)音楽院に参加し、室内楽を H. フィリップス氏、W. マルサリス氏の両氏に師事。在学中に関西フィルハーモニー管弦楽団に入団。現在、同団を経て読売日本交響楽団トランペット奏者、トウキョウモーツァルトプレイヤーズ、なぎさプラスゾリス Ten、Mostly Trumpet 『THE MOST』メンバー。上野学園大学非常勤講師。

## 松下絵里 Eri MATSUSHITA

東京音楽大学卒業。トランペットを上田仁、津堅直弘、高橋敦、栃本浩規、A. アンリの各氏に師事。第 18 回浜松国際管楽器アカデミーにて G. ゾンマー・ハルター氏に師事。第 84 回横浜新人演奏会に出演。東京ファンファーレオーケストラ、トランペットアンサンブル「PETEN」メンバー。

## ティンパニ

## 小原由紀 Yuki OHARA (首席)

東京音楽大学付属高等学校を経て、同大学卒業。東京音楽大学教職課程管弦楽・吹奏楽指導助手。これまでに、菅原淳、野口力、藤本隆文、岡田眞理子、藤本佳子の各氏に師事。

## Nature and Music

『自然と音楽』演奏会シリーズは、2011 年の東日本大震災後に生まれたプロジェクトである。

自然の猛威を感じながらも、自然との共生を続けていくために、われわれ音楽家がどのようなメッセージを発信したらよいかを考え、募金活動という形ではなく、実際に湘南国際村で行われている「植樹」や、東北で防波林を作るプロジェクトなどに演奏会から得られた利益を還元していくことを考えた。

音楽の成立過程のなかで、音楽が「自然」を表現し始めたことから、「音のなかに自然を感じ、自然と向き合う」ことを目的に、このテーマが作られた。

## afia アフィア事務局

Tel : 080-3347-8118 / Fax : 045-512-8506

HP : <http://afia.info> E-mail : [mail@afia.info](mailto:mail@afia.info)

オーケストラアフィアでは演奏活動を応援して下さる方々を広く募集しています。

ご質問、詳細などはアフィア事務局までお問い合わせください。

責任ある木材資源を使用した FSC® 森林認証紙にノン VOC インキ(石油系溶剤 0%) など、印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場にて印刷しています。また、読みやすさに配慮した書体を使用しています。Printed & Designed by Ohkawa printing Co.,Ltd

